



下田市議会だより

12月
令和6年
(2024)
No.92

- P 1 7月臨時会・9月定例会ポイント
- P 2～3 決算審査特別委員会審査報告
- P 4～6 総務文教委員会審査報告・産業厚生委員会審査報告
- P 7～9 市政を問う一般質問
- P 9 下田市議会と下田中学校生徒とのつながるミーティング
- P 10 議案等の審議結果
- P 11 賛否の分かれた議案、表紙の情報、編集後記

— 7月臨時会総括 —

会期を7月29日のみの1日間とし、6月18日大雨の災害復旧事業に係る専決1件、副市長選任の人事1件、契約3件、補正予算1件の議案が上程されました。

契約議案の3件は、いずれも新庁舎整備工事の請負契約に係るもので、予定価格1億5,000万円以上の工事であることから議会の議決に付されたものです。なお、全ての議案は全会一致で原案どおり可決されました。

— 9月定例会総括 —

会期を9月4日から9月26日までの23日間とし、決算10件、報告3件、条例5件、補正予算9件、議員発議(条例)1件、議員発議(意見書)1件の29議案が上程されました。また、一般質問では8名の議員が18件の通告に基づき、市政全般の課題等を問いました。

9月定例会は、前年度の決算認定について審議するため、8名の議員からなる決算審査特別委員会を設置し、関係する審査資料の提出を求める等、現地視察を含め7日間にわたり慎重な審査を行いました。

会期最終日には、各議案に対し議員がそれぞれ賛成討論・反対討論を行い、報告議案を除く26議案のうち、決算・条例・補正予算等の25議案を原案どおり認定・可決し、補正予算に係る1議案を修正可決しました。修正可決となった議案は、令和6年度下田市一般会計補正予算(第6号)で、新庁舎等建設推進事業のうち、庁舎跡地利活用等に関連する費用228万3千円を削除するもので、賛成6・反対5により修正可決となりました。

議員発議は、議会運営委員長を提出者とし、各派代表者を賛成者とする「下田市議会議員の請負の状況の公表に関する条例の制定について」と「稲生沢川河口及び下田港湾内の不法係留船の撤去を求める意見書の提出について」の議案を上程し、全議員が賛成し可決されました。

【発議第5号 下田市議会議員の請負の状況の公表に関する条例の制定について】

これまで議員個人は、市との請負が認められていませんでしたが、近年の地方議員のなり手不足等に対応するため、地方自治法が改正され年間300万円までの請負が可能となりました。

意見書

稲生沢川河口及び下田港湾内の不法係留船の撤去を求める意見書

現在、稲生沢川河口から下田港湾にさしかかる導流堤の脇には、総トン数90～120トンと思われる漁船6隻が、さらには、既に沈没している総トン数7.9トンクラスの2隻の漁船、合計8隻もの漁船が不法に係留放置されている。

また、油の流出被害が予想されるためかオイルフェンスと思しきもので囲われており、つい数年前までは5隻であったことから、廃船捨場と言ってよい状況となっている。川幅70m程度のところ25m程が5隻の廃船で占められており、景観上、船舶の通行上も問題となってくる。

1854年の安政の大津波の時は、千石船が市街地中心部まで打ち上げられている。千石船の10倍もの廃船が東海地震や東南海地震等の大津波により、稲生沢川に押し流されれば、みなと橋や新下田橋を壊し、市街地に押し寄せれば家々を破壊する凶器となる。

以上のことから、東日本大震災や能登半島大地震による津波の被害状況から見ても放置船舶が凶器となることが明らかである。

そこで、次のとおり廃船の撤去を静岡県及び国に対して求める。

記

1. 稲生沢川及び下田港の管理者である静岡県に対し、下田港湾内の不法係留船を早急に撤去されるよう求める。
2. 国は静岡県に対し、撤去のための指導と財政的支援をされるよう求める。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき、意見書を提出する。



決算審査特別委員会審査報告

9月定例会では、令和5年度各会計の決算について審査しました。審査内容の一部を紹介します。

決算審査特別委員会 委員長 岡崎大五 副委員長 浜岡 孝
委員 柏谷祐也・大西將由・土屋 仁・天野美香・楠山俊介・鈴木 孝

新庁舎建設推進事業（旧校舎活用棟分） 8億96万2,700円

新庁舎建設のうち、旧校舎活用棟が竣工しました。令和6年4月30日に開庁し、市長室、副市長室、議場を設置した他、議会事務局、企画課、総務課（一部）、財務課、防災安全課、産業振興課、観光交流課、建設課、監査委員事務局の業務が行われています。市民の皆様の入口は、金谷温泉の斜め前、エレベーターは奥側に取り付けられています。



【旧校舎活用棟外観】

総務課（一部）、市民保健課、福祉事務所、出納室、教育委員会（学校教育課・生涯学習課）、環境対策課、上下水道課は、従来のとおりです。

なお本事業は、緊急防災減災事業債を利用しており、元利償還金の70%が地方交付税措置となり、下田市の負担は3割程度です。

伊豆縦貫道建設促進事業 2,407万円

建設発生土の処理が課題となっており、発生土活用土地検討業務（繰越明許）に385万円が当てられました。

なお、後5年で（仮称）下田北ICの建設が、10年で下田までの開通が計画されています。

旧下田グランドホテル安全対策工事 647万9千円

一部で建物の劣化が著しいため、落下物等飛散防止のため、周囲に防護柵が施されました。旧下田グランドホテルの今後については、令和6年度には基本構想がまとめられ、令和10年度からの整備が示されています。



【旧下田グランドホテルの現地視察】

空き店舗等活用創業支援事業補助金 474万7千円

空き店舗等を利用して出店する者に対して、11件の補助金が交付されました。まちなかを中心に、新しい店の出店に大きく寄与しています。

河川緊急浚渫工事 1,985万5千円

里川（467万5千円）、下條川（955万9千円）、大浜川（562万1千円）にて、河川緊急浚渫工事が行われました。

外ヶ岡交流館南面外壁改修工事 2,052万6千円

外ヶ岡交流館の南面外壁工事が行われました。本事業は、過疎対策事業債 2,050 万円を利用しており、元利償還金の 70%が地方交付税措置となり、下田市の負担は 3 割程度です。なお令和 6 年度には、北側の改修工事が予定されています。



【外ヶ岡交流館の現地視察】

学校給食

学校給食運営協議会において、1 食単価小学校 270 円、中学校 322 円に改定しましたが、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、1 食単価小学校 260 円、中学生 310 円に据え置き、保護者負担の軽減を図ったところです。

なお、主食（米、パン、麺）を学校給食会を通じ指定業者が納入していますが、継続性が懸念されることから、学校給食センター内での炊飯を現在検討中です。

民生委員の欠員

令和 5 年度には民生委員の欠員が 11 名と人材難が深刻な状態となりました。新しい委員を探しつつ、現委員でやりくりをしているところです。なお、令和 6 年度には欠員 10 名と是正されました。

下田市シルバー人材センター助成事業 300 万円

令和 6 年 3 月 31 日現在で（一社）下田市シルバー人材センターの登録者は 102 名となり、国の補助基準を満たす最低会員数 100 名を下回る恐れがあります。今後の事業の存続が危機的状況であることが、報告されました。

保健事業（保健事業と介護予防の一体的実施） 387万6,538円

主に 75 歳以上を対象に「フレイル測定&フレイルにならない食事と運動の講座」を、6、11 月に 24 会場で実施し、計 539 名の参加者がありました。市内多くの会場で、定期的に行うことにより、高齢者の皆様の居場所づくりにもつながっていくことが期待されています。

*フレイル：健康と要介護の中間の状態を意味し、対策によって健康に戻る状態のこと。



【フレイル予防講座】

まとめ

令和 5 年度施政方針で示された、「つながる」、「グローバル CITY プロジェクト」、「下田ブランド力向上」、「みなとまちゾーン活性化」では、「つながる」をテーマにした施策は散見されたものの、「グローバル CITY プロジェクト」については、今後精査が必要との見解が示されました。「下田ブランド力向上」と「みなとまちゾーン活性化」は具体的な施策が乏しく、進行が難航していることが確認されました。

また夏期海岸対策協議会の予算が、令和元年度の 1,371 万 9,148 円から令和 5 年度の 4,217 万円に増大していることは、やむを得ない面があるとはいえ、今後、組織、予算も含めて、大改革が必要です。

全体的に観光予算の見直しの時期に差し掛かっており、ごみ処理場についても規模の縮小によって大幅に予算を削減し、教育、文化、福祉等、直接市民生活に関わる分野への投資を増やすことで、市民サービスを充実し、下田で暮らしてよかったと思えるような予算体系にしていきたいと総括しました。



総務文教委員会所管の主な審査項目を
紹介します。



令和6年7月臨時会での主な審査項目です。

一般会計補正予算（第5号）の主な内容

心と体の温泉健康創出プロジェクト推進業務委託等 113万6千円

令和5年度に策定した「稲梓地域活性化基本計画」の重点プロジェクトとして、稲梓地区の宿泊施設を会場に、稲梓地域の自然環境を活用した里山アクティビティと温泉入浴の日常利用による健康増進プランの開発を行うものです。

令和6年9月定例会での主な審査項目です。

下田市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定について

「こども基本法」の施行に伴い、令和8年4月から令和12年3月までを計画期間とする「下田市こども計画」を策定し、こども施策を推進するため、附属機関として下田市こども計画策定推進協議会を設置するもので、協議会委員構成、委嘱事務、任期等については、規則を制定し規定します。

一般会計補正予算（第6号）の主な内容

新庁舎等建設推進事業 234万円

項目	金額	内容
時間外勤務手当	△189万5千円	河内庁舎への引越し作業に係る手当の不用額
庁舎跡地利活用方針検討委員報酬	18万3千円	東本郷庁舎の移転に伴う跡地の利活用方針について検討を行う委員会の委員謝礼
普通旅費	10万円	庁舎跡地利活用方針の検討に向けた参考事例の視察旅費
消耗品	20万円	職員駐車場通路の簡易照明資材、新庁舎広報用事務用品
新聞折込手数料	20万2千円	新庁舎建設事業について周知するための資料の新聞折り込み手数料
新庁舎建設用地維持管理業務委託	95万円	敷地南側の植栽剪定、利用者駐車場の整地補修、敷地周囲の水路清掃委託
庁舎跡地利活用方針策定支援業務委託	50万円	庁舎跡地利活用方針の検討作業のワークショップの開催や図面等資料作成などの業務支援委託
東本郷庁舎西館活用可能性調査業務委託	150万円	新庁舎利活用方針及び伊豆急下田駅前周辺整備計画に基づく整備事業が開始されるまでの経過措置として、東本郷庁舎西館を活用する可能性確認のための建物の健全性調査委託
複写機使用料	50万円	新庁舎整備事業について市民への周知のための資料作成
新庁舎用維持補修用資材	10万円	スロープ等の補修資材

消防施設整備事業 修繕料 255万円 半鐘塔解体工事 39万円

防火水槽、詰所の修繕と大賀茂地区の半鐘塔の解体工事を施工します。

小学校管理事業 修繕料 1,417万6千円 主な修繕の内容は下記のとおりです。

学校名	内容
稲梓小学校	渡り廊下雨漏り修繕、法面2箇所の修繕
白浜小学校	屋外器具庫防水修繕、換気扇取替修繕

下田小学校	中央階段2階への踊り場付近の漏水修繕
朝日小学校	一輪車置き場柱脚修繕、渡り廊下手すり修繕、雨樋修繕、屋内運動場照明交換修繕、遊具修繕
大賀茂小学校	遊具修繕

その他、消防設備点検で指摘があった事項について修繕を実施します。

小学校管理事業 大賀茂小学校校舎屋根防水工事 1,320万円

学校施設整備基金 1,300 万円を充当し、雨漏り対象箇所の校舎・屋内運動場の屋根全面の防水工事を施工します。



【大賀茂小学校外観】

スポーツ推進事業 スポーツ合宿・大会誘致推進事業 ホームページ作成業務委託 173万8千円

スポーツ庁補助事業の「スポーツによる地域活性化・まちづくり担い手育成総合支援事業補助金」を活用し、スポーツ合宿・大会誘致推進事業に係るホームページを作成します。

債務負担行為

事 項	期 間	限 度 額	内 容
下田中学校通学バス運行業務委託料	令和6年度から令和9年度まで	事業予定額8,560万円の範囲内で、下田中学校通学バスの運行業務を委託する旨の契約を令和6年度に締結し、令和7年度以降に支払う。	稲梓地域の生徒を対象とする通学バス（定員 29 名マイクロバス2台）の運行に加え、部活動の大会参加及び小学校の校外学習等の際の運行を委託するものです。
学校給食調理配送等業務委託料	令和6年度から令和9年度まで	事業予定額1億9,800万円の範囲内で、学校給食調理配送等業務を委託する旨の契約を令和6年度に締結し、令和7年度以降に支払う。	1回当たり、約1,200食の給食調理、配送、回収、洗浄、衛生管理及び施設・設備清掃等の業務を委託するものです。

※令和6年度は入札、契約のみを行い、令和7年度から令和9年度までの3年間で支出します。



挿し絵

スクールバス、学校給食
下田高校美術部（1年 土屋美桜）



産業厚生委員会所管の主な審査項目を紹介します。

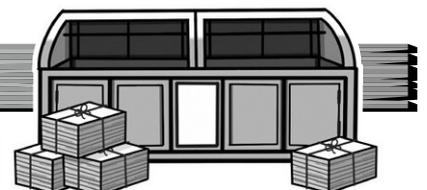
産業厚生委員会

令和6年9月定例会での主な審査項目です。

一般会計補正予算（第6号）の主な内容

ゴミ減量・資源化推進事業 消耗品費7万7千円

マックスバリュ下田銀座店、東急ストアに段ボールと雑紙を回収する回収ボックスの設置をするもので、これにより可燃ゴミの減量化を更に進めます。



挿し絵

回収ボックス
下田高校美術部（1年 宋 紗月）

一部事務組合下田メディカルセンター負担事務負担金 2,281万1千円

下田メディカルセンターの病床減による営業利益の減少、不採算分の赤字補填、医師の派遣に伴う交通費・宿泊費の負担に対する国からの特別交付税が確定したことにより、下田市負担分を支出するものです。

林道寝姿山線用地測量業務委託 459万2千円

林道寝姿山線の一部の区間を下田市が譲り受けることになったため測量を行うものです。測量をもとに災害時の迂回路として林道寝姿山線を整備し活用をしていきます。

宿泊業の経営力基盤強化事業費補助金 1,237万4千円

宿泊業の人手不足対策のため、スマートチェックインシステム等の導入及び従業員宿泊施設の整備に対する補助を行うため、1,050万円の予算を確保しましたが、その後新たに事業に参加を希望する事業者があったため増額をして事業を行うものです。

道路維持事業 市道維持補修工事 2,685万円

地域要望に対応するため、市道大横町通線の他、16件の市道の維持補修を行うものです。

交通安全施設整備事業 交通安全施設設置工事 305万円

地域要望に対応するため、大沢地区、須原地区、柿崎地区の市道の転落防止柵の設置をするものです。

橋梁維持事業 1,200万円

中村橋の落橋防止装置の追加に伴い、中村橋測量業務委託に300万円を増額、本郷橋大規模修繕工事のための資材物価高騰により900万円を増額するものです。

河川維持事業 985万円

河川の小規模修繕に325万円、地域要望に対応するために、準用河川入田川の護岸修繕工事、他6件の工事費660万円を見込むものです。

排水路維持事業 2,955万円

排水路、小規模修繕に180万円、地域要望に対応するため立野地区の排水路工事、他6件の工事費に1,275万円、横川地区の馬ツ田排水路改良工事費に1,500万円を見込むものです。



【馬ツ田排水路改良工事の現地視察】

国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）の主な内容

特定健康診査・健康指導事業 健康診査業務委託 80万5千円

国民健康保険では40歳から74歳までの方を対象に特定健康診査を行っていますが、病気の早期発見と、健診の習慣づけを目的として、20歳から39歳までの方を対象とした健康診査を行うものです。

柏谷 祐也 議員



1. 小学校修学旅行の保護者負担額について
2. PTAの現状について
3. 白浜大浜海水浴場について



【動画】

①小学校修学旅行の保護者負担額について 各学校では大幅な児童数の違いがあり、貸切バスの利用時の負担額の格差があるため、現在の児童数を考慮し一部合同実施等の検討を求めた。

②PTAの現状について 会員数減少 PTAの運営も厳しい現状の中、各単位PTAは、下田市PTA連絡協議会や賀茂地区PTA連絡協議会へ負担金を支出しているが、県内外の活動により上部団体の運営も厳しい現状です。各単位PTAの負担も考え活動をサポー

トする上部団体への助成金の検討を求めた。

③白浜大浜海水浴場について 市職員によるパトロールは、リスクを伴い安全性が保たれていないため改善を求めた。海水浴場禁止事項では、他者を畏怖させる入れ墨や迷惑を及ぼす音量の音楽等を禁止しているが、明確な禁止事項でなく、注意する側も対応に困惑しているため、明確化したルールの検討を求めた。海水浴に関する条例では、許可を受けていない行為を行う業者に対し罰則の適応には至らない。浜地の営業行為全体の改善、入札や選定制度の導入、自由使用の原則による営業が必要であると問いました。

江田 邦明 議員



1. 「ひと・もの・かね」と「ことづくり」について



【動画】

「ひと」：民間有識者会議「人口戦略会議」が公表した、消滅可能性自治体に関する正しい理解と対策について問いました。下田市将来人口ビジョン予測に照らした、出生数と推定人口の現状について問いました。令和6年8月1日現在、住民票上の登録人口は19,442人ですが、より正確な国勢調査に基づく推計人口は18,652人で、既に1万9千人を大きく割込んでいるのが現状です。その他、関係人口の創出やその指標となる「ふるさと住民票制度」の取組みについて提案しました。

今の下田市には、市民が出産・子育てしやすいと思

える環境づくりが必要で、特に将来の経済的負担に対する不安が大きく、出産祝金や高校生通学費補助等の必要性を訴えました。

出生数 (人)	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	103	78	69	78	60	66

「もの」：休業中の農村体験宿泊施設(あずさ山の家)について、条例廃止を含めた今後の方針について問いました。「かね」：市長が掲げる新たな政策を確実に実施していくため、いかに歳入を確保していくか問いました。「ことづくり」：具体的に何を実施し、どの様に経済の好循環へつなげていくか問いました。

浜岡 孝 議員



1. 外国人と共生する社会に向けた取り組みについて
2. 広域ごみ処理事業の施設規模の見直しについて



【動画】

1. 特に介護の現場やホテル・旅館などにおいて働き手が不足して、事業展開を阻害する要因になっている。国としても、外国人の皆さんに手伝ってもらうことで生産性を維持しようとする育成就労制度を創設するなどの対応を進めている。下田市においても、日本語能力が高く専門性を持った外国人の方々と共に働き暮らす社会づくりに資するような施策に積極的に取り組んで行くべきで

はないか。

2. 南伊豆地域広域ごみ処理事業について、施設規模を縮小することで、市民の経済的な将来負担を軽減し、図書館建設などの資金を生み出す挑戦をするべきではないか。規模縮小のための視点は二つ。①ERS(急速発酵乾燥資源化装置)というゴミの半減化を実現している新技術を積極的に取り込む。②広域連携体制を見直し、処理能力に余裕のあるエコグリーンセンター東河との連携を図る。

岡崎 大五 議員



1. 見せる海を作ろう
2. 下田市観光協会の再編と外ヶ岡交流館の商業化について
3. 緑の基本計画について
4. 東海汽船による東京～下田間の就航について



【動画】

①下田の夏の海水浴客は、昭和59年の173万人から令和6年には20万人と88%も減少しています。「泳ぐ海」から「見せる海」へと発想を転換し、通年型の海観光を目指していく時期が来ています。入田浜では地元からビーチに「海を見る」ベンチを置く要望が出ており、当局からは前向きな回答をいただきました。

②下田市観光協会は、観光協会事務と施設係に分かれており、非合理的な運営が指摘されており、改善を求めました。また外ヶ岡交流館を商業化することで、観光協

会の予算確保による市補助金の削減、施設の有効利用を提案しました。

③緑の基本計画は、都市公園を作ることのみが着目されがちですが、都市計画全体の中での法定計画です。都市計画審議会の中で審議されている旧下田グランドホテル、(仮称)下田北ICの整備計画、民間との共同によるPFI方式について質問しました。

④下田を終着点でなく、海と結ぶことでハブとしてとらえることによる、観光開発を提案しています。そんな中、この秋には、東海汽船による就航が予定されています。下田市の対応を質問しました。

土屋 仁議員



1. 下田市における「自治体DX(デジタルトランスフォーメーション)」の進捗状況について
2. 「ネクストGIGA」について
3. 中学校部活動の地域移行の検討状況について



【動画】

1. 総務省が策定した、「自治体DX推進計画」に基づき、重点的に取り組むべき事項とされているオンライン申請、マイナンバーカードの普及促進、自治体情報システムの標準化、公式LINEサービス等の進捗状況について質問するとともに、デジタル人材の育成、デジタルデバインド(情報格差)対策、「書かないワンストップ窓口」の導入について求めました。

2. 令和3年度から1人1台端末が本格的に活用されていますが、端末耐用年数に伴う更新計画、また、自治

体間での端末利用における格差、先生方のICT活用スキルの格差、研修体制の不足、ICT支援人材の不足等これまでのGIGAスクールの課題の検証について質問しました。

3. 下田市立中学校部活動在り方検討協議会における協議内容、今後の方針、下田中学校サーフィン部における部活動指導員の活用に伴う教員の働き方改革に繋がる成果について質問するとともに、部活動が地域移行した場合に必要な費用負担や支援についての検討を求めました。

沢登 英信議員



1. 健全かつ安全な海水浴場実現するための提案
2. 教育現場の雇用の実態と平和教育について
3. 下田港湾河口の不法係留船の撤去について



【動画】

1. 健全かつ安全な海水浴場を実現するための提案

①白浜大浜海水浴場について

1) ドルフィンやリバイバルがパラソルやサマーベッド等を浜辺に持ち込み違法営業をしている。「Xデー」を設け、職員、警察官、SOMAやボンプ職員がチームを組み8時から17時まで監視する。違法行為であると指示書をその都度発行し、刑事告訴を相手に伝え、実行する。

2) SOMAが有料でビーチバレーコートを貸し出していますが、浜地内での営業行為は海水浴場の管理運営上必要な例外を除き、下田市海水浴場に関する条例で禁

止されています。

3) 浜地内のアルコール販売は中止させるべきです。

②吉佐美の夏期事業について

吉佐美区の入田売店はS社により、タコスやアルコールを売る店となり、吉佐美大浜の食堂売店棟とシャワー棟がV社に貸し付けられ、法人きさみの土地も転貸されました。区民の批判を受け、一部契約変更したため約600万円を区の会計からV社へ支払っています。

長時間の営業行為は浜辺の環境破壊となります。市は環境保全や法的な面から支援すべきです。

2. 教育現場の雇用の実態と平和教育について

3. 下田港湾の不法係留船の撤去について

天野 美香議員



1 誰もが安心・安全・豊かに暮らすことができるために



【動画】

今年の7月から8月は、過去125年で最も暑かった昨年に匹敵する暑さであり誰もが酷暑と向き合った夏でした。そこで今後、行政としてさらに続く異常気象への対応を市民の生活の安全性を第一に考え備えていく必要があること。また、下田中学校体育館は平時授業・部活動等で学校・子供たちが利用する場所であるが、体育館は災害時の折の避難場所でもあり酷暑・厳冬への対応・市民の命を守るためにも空調設備設置の必要性があることから、経済産業省所管のLPガス災害バルク等の補助金を活用し(ガス空調補助金50%の負担)体育館の空調設備設置の提案をし、市長・当局のお考えを伺いました。

1. 市民・子育て世代から寄せられた声について

(1) 通学路について

(2) 誰もが利用可能なリフレッシュスペースとなる市民の居場所のあり方について

(3) 下田市の子育て支援について

(4) 下田市の医療体制について

2. 子供たちから寄せられた声について・災害時の備えもふまえて

(1) 下田中学校体育館、避難場所となる施設への空調設備設置について

(2) 市内7小学校・中学校のグラウンドの状況について

3. 令和6年8月8日に発表された南海トラフ地震臨時情報に関連して

(1) 津波・地震、災害への対応が冷静・円滑に行われるために今後、具体的な取り組みについて



スマートフォンでQRコードを読み取ると各議員の一般質問の動画視聴ができます。



鈴木 孝 議員



1. 下田市の休日保育について



【動画】

下田市の保育所、保育園、子ども園は月曜日から土曜日までの保育の受け入れはしていますが、日曜日、祭日に受け入れをする、休日保育は、一部の民間保育園を除いて、行っていないのが現状です。

下田市は観光に関わる産業が主な産業ですが、労働人口の減少も影響して働き手不足が深刻化しております。

乳幼児を預け仕事に従事出来る環境を作る施策は下

田市の産業を支援するものであり、子育てに優しい町として、認識されることが、下田市のイメージアップになると考えられます。

しかし、保育士の需要が高まる一方で、保育士の十分な人員確保が出来ていないのが現状であるため、保育士への過度な要求による負担も考慮する必要があると思います。

この問題の現状をどのように考えているのか、そしてこれからどのように取り組んでいくのかを伺いました。

下田市議会と下田中学校生徒とのつながるミーティング

8月5日(月)、下田の未来のまちづくりの主角となる中学生に、議会や政治、選挙に関心を持ってもらうとともに、議会としても、中学生の自由な意見を聞くことにより、若い世代のニーズ、考え方等を今後の議会活動の参考にするために、下田中学校の生徒会執行部の6人と3年生学年委員7人を議場に招き、「下田市議会と下田中学校生徒とのつながるミーティング」を開催しました。

ミーティングは中村議長の挨拶で始まり、議員、生徒それぞれの自己紹介、総務文教委員長による議場の紹介、議会の仕組みの説明、直近の選挙における投票率の説明の後、意見交換会が行われました。

生徒からは、「市議会議員になった動機」、「議員の仕事の内容」、「議員としてのやりがい」等の質問があり、更に、身近な問題として「体育館への空調設置」、「グラウンドの改良」等の要望がありました。

参加された生徒達は、初めての体験で最初は緊張されていた様子でしたが、最後には全員笑顔で記念撮影を行いました。

市議会としても、議会の役割や仕組みを理解してもらうために、今後も児童・生徒との意見交換会を開催していきます。



生徒の声

- それぞれの議員さんの仕事に対する熱意がすごく伝わってきて、とても応援したくなりました。
- 議員になった動機が、自身の大変な経験から支援や改善をしたいという思いなど、どれも下田や下田市民のことを考え、思いやりに溢れていることが印象的でした。
- 投票率が年々下がってきていることを知ったので、自分が18歳になったら必ず投票に参加して投票率を上げていきたいです。議員さんの仕事は改めて魅力的だと感じました。

令和6年7月臨時会 審議結果

報第10号	専決処分の承認を求めることについて (令和6年度下田市一般会計補正予算(第4号))	承認
議第46号	副市長の選任について	同意
議第47号	令和6年度(債務負担)下田市新庁舎整備工事(建築)請負契約の締結について	原案可決
議第48号	令和6年度(債務負担)下田市新庁舎整備工事(電気設備)請負契約の締結について	原案可決
議第49号	令和6年度(債務負担)下田市新庁舎整備工事(機械設備)請負契約の締結について	原案可決
議第50号	令和6年度下田市一般会計補正予算(第5号)	原案可決

令和6年9月定例会 審議結果

認第1号	令和5年度下田市一般会計歳入歳出決算認定について	原案認定
認第2号	令和5年度下田市稲梓財産区特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
認第3号	令和5年度下田市下田駅前広場整備事業特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
認第4号	令和5年度下田市公共用地取得特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
認第5号	令和5年度下田市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
認第6号	令和5年度下田市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
認第7号	令和5年度下田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
認第8号	令和5年度下田市集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
認第9号	令和5年度下田市水道事業会計歳入歳出決算認定について	原案認定
認第10号	令和5年度下田市下水道事業会計歳入歳出決算認定について	原案認定
報第11号	令和5年度決算に基づく下田市健全化判断比率の報告について	議決不要
報第12号	令和5年度決算に基づく下田市公営企業の資金不足比率の報告について	議決不要
報第13号	債権放棄の報告について	議決不要
議第51号	下田市水道布設工事監督者の配置基準及び資格並びに水道技術管理者の資格を定める条例の制定について	原案可決
議第52号	下田市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議第53号	下田市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議第54号	下田市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議第55号	下田市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議第56号	令和6年度下田市一般会計補正予算(第6号)	修正可決
議第57号	令和6年度下田市稲梓財産区特別会計補正予算(第1号)	原案可決
議第58号	令和6年度下田市下田駅前広場整備事業特別会計補正予算(第1号)	原案可決
議第59号	令和6年度下田市国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)	原案可決
議第60号	令和6年度下田市介護保険特別会計補正予算(第2号)	原案可決
議第61号	令和6年度下田市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	原案可決
議第62号	令和6年度下田市水道事業会計補正予算(第1号)	原案可決
議第63号	令和6年度下田市公共下水道事業会計補正予算(第1号)	原案可決
議第64号	令和6年度下田市漁業集落排水事業会計補正予算(第1号)	原案可決
発議第5号	下田市議会議員の請負の状況の公表に関する条例の制定について	原案可決
発議第6号	稲生沢川河口及び下田港湾内の不法係留船の撤去を求める意見書の提出について	原案可決

《賛否の分かれた議案》

(○：賛成 ×：反対 欠：欠席 -：退席)



番号	9月定例会議案件名	柏	大	浜	土	天	岡	楠	中	渡	鈴	沢	江	審議結果
		谷	西	岡	屋	野	崎	山	村	邊	木	登	田	
認第1号	令和5年度下田市一般会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	/	○	○	×	○	原案認定
主な意見														
反対 あずさ山の家の休止は条例違反であり、稲梓地域の活性化のためにも検討を急ぐべき。ワーケーション拠点施設の利用が低調な原因を早急に明らかにして、どのように運営していくのか定めるべき。また、1市3町のごみ処理事業が、今、本当に必要なのか。生活環境影響調査の結果は問題ないとされているが間違いではないか。さらには、旧下田グランドホテルの解体は将来的に市の財政を圧迫する。跡地を防災公園とすることも妥当か疑問。 賛成 許されないような大きな瑕疵はなく、基本的に不認定とするだけの問題はない。さらに、来年度の予算編成に向けて当局にも頑張っていたいただきたいというエールを込めて認定に賛成。														
議第56号	令和6年度下田市一般会計補正予算（第6号）	○	○	○	○	○	○	○	/	○	○	×	○	修正可決
	令和6年度下田市一般会計補正予算（第6号）（修正案）	×	×	○	×	○	○	×	/	×	○	○	○	原案可決
修正の要旨 東本郷庁舎西館については、パブリックコメントを実施し、新庁舎等建設基本構想・基本計画審議会が、市長の諮問に応じ調査や審議を行い答申したなかで、令和8年度以降に庁舎の全てを解体するとしている。また、庁舎跡地利活用については、重要な政策決定であり住民や外部有識者の意見を取り入れるため、法律又は条例に基づく附属機関の設置が必要。 本会議での質疑及び委員会審査において、関係する附属機関との調整不足、検討委員会が私的諮問機関であること、検討委員会の設置要綱案がないこと、庁舎西館の活用に対する庁内での政策決定が不十分であることが確認され、また政策形成の過程が不透明で市民の理解も得づらいことから、庁舎跡地利活用等に関連する費用228万3千円を減額修正するもの。														
主な意見														
修正案賛成 <ul style="list-style-type: none"> 庁舎跡地に求められる機能として、情報発信機能、観光や地域情報の発信、交流機能、人が集い交流できる機能、場の提供、産業機能等といった役割があるとされているが、現在の西館を使ってこの機能を確保すべきか疑問。 駅前広場の活用に、市役所西館が残っていることはイメージしにくく、駅前広場開発のスピード感が落ちるのではないか。今、市民の期待は新しい下田を作ること。それを進めるには、この旧庁舎を解体し、夢を見られる状況を作るべき。 原案賛成 <ul style="list-style-type: none"> 現庁舎跡地に求められる施設や機能、役割について、利活用方針の検討を先行することとしたものであり、必要となる委員会の設置、既存施設の活用可能性等の調査は必要。 今回の内容は、従来の基本計画等で示されている計画について、駅前周辺など状況の変化から、より状況に合う整備を検討するための施設調査や、方針検討のための費用を計上しているものであり妥当。 														

※議長（中村 敦）は、可否同数の採決以外は採決に加わりません。

発行 下田市議会
編集 広報委員会
住所 下田市河内1-1-1

TEL 0558-12200
FAX 0558-11007
E-mail: gk@city.shimoda.lg.jp

広報委員会
委員長 鈴木 孝
副委員長 土屋 仁
委員 天野美香 岡崎大五 江田邦明

議会HP



表紙の情報

表紙写真 下田高校写真部（2年 鈴木南那）

表紙題字 下田高校書道部（2年 鈴木心美）

明け方の下田の海は、日の出を眺めながら静かな時間を過ごす人々が集まります。この写真では、朝の穏やかな海に伸びるサンロードと、オレンジ色の太陽から広がる美しいグラデーションを捉えました。下田の海は、季節や時間帯ごとに異なる表情を見せ、夏の賑わいから夕方のサーフィンまで多彩な魅力があります。今後も地元民ならではの視点で、下田の海のローカルな雰囲気を撮影していきたいです。（鈴木南那）

編集後記

去る10月27日に執行された衆議院議員総選挙における下田市の投票率は、55.86%と前回投票率を若干下回りました。

4月の県知事選挙、6月の市長選挙に続いて、前回投票率を下回る結果となりました。

下田市議会では、若い世代に政治、議会、選挙等を身近に感じてもらうために、新たな取り組みとして、小・中学生との意見交換会を行いました。

また、9月定例会には下田高校2年生42人が、授業の一環として議会を傍聴しました。

市議会としても少子高齢化が進む中、若者の思いを政治に反映させるため、選挙の重要性を周知するとともに、投票率の向上に向け、取り組んでいきます。（土）

下田市議会の活動に役立てるため、市民の皆様の声を電話・メール・FAXで右記（欄外記載の連絡先）までお寄せください。



●この広報誌は、ユニバーサルデザインをコンセプトに開発された可読性・視認性・判別性に優れたUDフォントを使用しています。
●この広報誌は、再生紙を使用しています。